

平成22年度

橋梁技術発表会及び講演会

— 安全・安心な鋼橋 —

参加費無料
定員200名
申込先着順

会場 東建ホール・丸の内(東建本社3F)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-1-33
TEL 052-232-8070

平成22年
日時 11月11日(木) 13:00~17:25

13:00~13:10 **開会の辞**

社団法人日本橋梁建設協会
副会長・専務理事 中島 威夫

13:10~13:25 **橋建協レポート**
こんなにもある鋼橋のすばらしさ!!
需要創造特別委員会

第1部:技術発表会

13:25~14:10 **1.複合斜張橋の設計と施工**
— 銚子大橋(斜張橋部)上部工工事—
技術委員会設計小委員会 小塚 正博

14:10~14:55 **2.鋼床版橋梁のデッキプレート
増厚による疲労耐久性の向上**
— デッキプレート最小板厚見直しに関する
国土交通省の事務連絡を受けて—
技術委員会鋼床版小委員会 工藤 祐琢

14:55~15:40 **3.カントー橋工事報告**
— 大規模複合斜張橋の製作、架設について—
企画委員会国際小委員会 室井 進次
岡本 有造

15:40~15:50 **休憩**

第2部:特別講演会

15:50~16:20 **1.環境に優しい社会を支える建設用鋼材**
社団法人 日本鉄鋼連盟 建設環境研究会
橋梁用鋼材研究会

16:20~17:20 **2.鋼橋の耐震設計技術の進展**
— 何が出来るようになって、何が未だ出来ないのか?—



名城大学
理工学部 建設システム工学科
教授 宇佐美 勉

17:20~17:25 **閉会の辞**
社団法人 土木学会 中部支部
幹事 宗宮 裕雄

申込方法

- ① Fax. 052-351-2299 (裏面の用紙に記載)
- ② ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受け」まで(受付は9月下旬から)

申込期限 平成22年10月29日(金)

懇親会 アイリス愛知12F「グランシャリオ」にて
17時45分から開催します。
会費 1,000円
参加ご希望の方は、発表会当日受付にてお申し込みください。

連絡先 社団法人 日本橋梁建設協会 中部事務所
〒454-8517 名古屋市中川区清川町2-1(瀧上工業内)
Tel. 052-351-2299

継続教育 土木学会認定CPD(継続教育)プログラム
全国土木施工管理技士会連合会認定CPDSプログラム
※東京地区は 10月13日(水) (特別講演講師:東京大学 小澤教授)
大阪地区は 10月29日(金) (特別講演講師:大阪工業大学 栗田教授)
東北地区は 11月 5日(金) (特別講演講師:東北学院大学 中沢教授)
九州地区は 11月24日(水) (特別講演講師:長崎大学 中村教授)開催です。
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

発表原稿のPPTはホームページに掲載しますので、ご希望のかたはダウンロードするようお願いします。

アクセス



●名古屋市営地下鉄 桜通線・鶴舞線「丸の内」駅下車
1番出口より徒歩1分

1 複合斜張橋の設計と施工

— 銚子大橋(斜張橋部)上部工工事 —

千葉県東総地域と茨城県鹿行地域を結ぶ数少ない幹線道路として昭和37年に利根川に架けられた銚子大橋は、塩害による著しい損傷および地震などに対する安全性の向上のため、国内初となる、鋼コンクリート合成床版を用いたエッジガーダータイプの鋼2主桁複合斜張橋(橋長473.7m)として平成21年3月に架け替えが完了しました。ここでは、複合斜張橋としての構造概要、ケーブル定着部および鋼コンクリート合成床版における技術検討、主塔、上部工およびケーブルの施工について報告します。

2 鋼床版橋梁のデッキプレート増厚による疲労耐久性の向上

— デッキプレート最小板厚見直しに関する国土交通省の事務連絡を受けて —

近年、重交通路線に位置する一部の鋼床版橋梁において、供用期間の長期化にともなう疲労き裂が報告されるようになりました。鋼床版橋梁の耐久性を向上させる対策のひとつとしてデッキプレートを増厚し、重交通による鋼床版局部変形に起因する応力を低減する方法が提案されています。鋼床版小委員会では、閉断面リブとデッキプレート溶接部に着目し、国土交通省 国土技術政策総合研究所、独立行政法人土木研究所との三者共同研究など、デッキプレートを通するき裂に対するデッキプレートの増厚効果に関する検討を実施しております。ここでは、これまでに得られた知見のうち、デッキプレート増厚による疲労強度の向上効果、増厚する際の留意点や経済性等について報告します。

3 カントー橋工事報告

— 大規模複合斜張橋の製作、架設について —

カントー橋は、ベトナム国ホーチミン市から南に約180kmに位置するカントー市を流れるメコン河最大の支流であるハウ川に架かる全長2,750mのアプローチ桁、斜張橋(橋長1,010m、中央径間550mの複合斜張橋)からなる国道1号線上の橋梁である。大成・鹿島・新日鉄の共同企業体で本工事を受注し、新日鉄は斜張橋部のケーブル(1,616t)とケーブル制振装置などの付属品、中央径間550mのうちの鋼床版桁桁210m(2,804t)の製作、架設を担当した。

本報告書では、本工場の技術基準を含む契約内容、事業主、エンジニア、請負者間の業務の進め方、および、ケーブル、鋼桁の製作、架設の概要について報告する。

特別講演会

1 環境に優しい社会を支える建設用鋼材

社団法人 日本鉄鋼連盟 建設環境研究会
橋梁用鋼材研究会

鉄は私たちの生活に密着し、特に建設分野では日本の国内向け普通鋼の約半分が使われ、現代社会のインフラストラクチャーを支えています。

今日まで、私たちは建設用鋼材の製造段階から使用段階に至るまで、環境に優しい建設を可能とすべく様々な工夫と取組を実施してきており、本発表では、これらの取組内容と共に環境配慮型の各種建設用鋼材の特徴について報告致します。

特別講演会 講演者紹介

2 鋼橋の耐震設計における座屈理論の役割

宇佐美 勉

名城大学 理工学部
建設システム工学科 教授

— 何が出来るようになって、何が未だ出来ないのか? —

講演概要

大地震を受ける鋼橋の耐震設計に関する本格的な研究が始まったのは驚くほど新しく、平成年度に入ってからである。その中でも、平成7年の阪神淡路大震災により、鋼橋の耐震設計の不備が認識され、数多くの研究が行われるようになり、耐震設計技術は急速に進展した。現在では、鋼製橋脚から動的挙動が複雑な鋼橋全体の耐震設計法が土木学会から公表された鋼・合成構造標準示方書により可能な状態になっている。本講演では、この20年間の鋼橋の耐震設計技術の進展をレビューし、最新の耐震設計法を理解する上での座屈理論の役割について述べる。

— 略歴 —

1965年 名古屋大学工学部卒業
1967年 名古屋大学大学院修士課程修了
1970年 Washington University (米国セントルイス市)
博士課程修了、D.Sc.
1970年 名古屋大学助手
1972年 岐阜大学助教授
1976年 アジア工科大学院(タイバンコック)助教授
1980年 名古屋大学助教授
1987年 名古屋大学教授
2006年 名城大学教授
2008年 名城大学高度制震実験・解析研究センター代表者

— 専門分野 —

耐震工学 座屈耐力
— 研究分野 —
構造物の耐震・制震
— 所属学会 —
土木学会/地震工学/アメリカ土木学会/国際構造工学協会
— 受賞 —
1981年 土木学会田中賞(論文部門)
1985年 土木学会論文賞
1995年 土木学会論文賞
2005年 土木学会田中賞(研究業績部門)
2009年 土木学会田中賞(研究業績部門)
構造工学シンポジウム論文賞

FAX番号:052-351-2299

平成22年度

橋梁技術発表会

[中部地区]

参加申込書

所 属

団体名

所属

氏 名

役職

氏名

住 所

〒

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無